

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

トマト栽培終了時期のトマト黄化葉巻病防除対策（技術情報15号）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導の参考資料としてご活用下さい。

記

現在、トマト苗トラップ法によるトマト黄化葉巻病発生予察技術の確立にむけて調査試験中である。これまでの調査結果で明らかとなった保毒虫の発生推移から、以下のトマト栽培終了時期の防除対策が有効であると考えられる。

1 平成17年度トマト苗トラップ法による保毒虫の発生状況調査結果

（作型が統一された冬春トマト産地における春季以降の保毒虫の発生状況）

（1）方法

5～8月にかけて、毎月上旬の1週間、作型が統一された冬春トマト産地の野外にトマト苗を各地点12株ずつ設置した。そして苗回収時に寄生しているタバココナジラミ成虫数とウイルス保毒の有無を1頭ずつPCR法で調査した。

（2）結果および考察

保毒虫率は、春季以降高まり栽培終了直後の7月が最も高くなった。その後、ウイルスの宿主となるトマトの栽培が絶たれた8月はコナジラミは発生しているが、保毒虫は認められなかった（30頭中）。

この現象は、ハウス内の保毒虫が換気に伴い野外へ分散する機会が増え、栽培終了後の残さ片づけ時に大量に分散したためと推察された。その後、作型が統一された地域では、地域内にトマトの栽培がなくなると保毒虫密度は急激に低下したと考えられる。

トマト苗に寄生していた成虫数および保毒虫率の推移（平成17年）

		5月	6月	7月	8月	作型
熊本市	寄生成虫数（頭/株）	9.5	21.8	0.3	10.3	6/30で栽培終了、 8/10から定植開始
	保毒虫率	10.0%	3.3%	25.0%	0.0%	
横島町	寄生成虫数（頭/株）	0.3	13.3	1.3	15.8	6/30で栽培終了、 8/15から播種、購入苗の定植開始
	保毒虫率	0.0%	6.7%	23.3%	0.0%	

2 トマト栽培終了時期の防除対策

春季以降に野外で発生する保毒虫はトマトハウスから飛び出したもので、栽培終了直後に最も多く飛び出し、次作の伝染源になる。栽培後期から次作の定植時期までに野外の保毒虫を撲滅するため、以下の対策を徹底する。

（1）ハウス内の保毒虫の発生を減らす

・発病株は速やかに抜き取り、伝染源を減らす。

（2）野外へウイルス保毒虫を分散させない

・ハウス開口部（谷部やサイドなど）には防虫ネットを設置し、野外への分散を防ぐ。
・栽培終了後はハウス密閉処理を必ず行い、感染株およびコナジラミを完全に死滅させる。

（3）ウイルスを野外に定着させない

・ハウス周囲の野良生えトマトは除去する。

・作型が統一された地域では、栽培終了時期を遵守する。地域内でトマトの栽培を1ヶ月以上絶つことで、野外の保毒虫密度を低下させる。